

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第10回理事会 開催日：1月24日。出席者：佐野会長
他39名。

会議事項

1. 鉄鋼生産設備能力調査委員会報告
田畑専務理事報告
39年末に通産省に答申した生産設備能力算定方式の見直しに関する第1回の委員会を1月20日に開催した。今後この委員会は理事会の前後に開催していく方針である。
2. 協議事項
昭和42年度事業計画ならびに収支予算案に関する件
三井理事報告
維持会費 2,000万円の増額をやむをえないものと認めざるをえない大体の意向を大手6社の課長会議に諮りほぼ了承を得た。2月上旬に田畑専務理事と総務部長が活動状況など説明し維持費値上げのお願いに関西地区を訪問する。また 2,000万円の値上げについては3年間すえおきをするべく最善の努力をする。この線に沿うことを承認。
3. 企画委員解嘱ならびに委嘱の件
南敬太郎君を解嘱し、久田清明君に委嘱することを決定。
4. 表彰奨励候補選考小委員会委員解嘱ならびに委嘱の件
南敬太郎君を解嘱し、池野輝夫君に委嘱することを決定。
5. 編集委員解嘱ならびに委嘱の件
山本崇夫君を解嘱し下川敬治君に委嘱することを承認。
6. 共同研究会熱経済技術部会に耐火物分科会設置ならびに同分科会主査委嘱の件
吉田英雄君（川崎製鉄水島製鉄所築炉部長兼千葉製鉄所製鋼部長代理）を委嘱することを承認。
7. ソ連学士院開催製鋼物理化学に関するシンポジウムの件
5月中旬に的場富士製鉄副社長を団長とするデレゲーションをソ連に派遣することを決定。
8. 全国発明表彰受賞候補者推薦の件
発明協会から協会あて依頼があつたので該当者があれば協会に連絡願うこととなつた。

企 画 委 員 会

第9回企画委員会 開催日：1月20日。出席者：伊木
委員長他15名。

会議事項

1. 昭和42年度事業計画および収支予算案に関する件
三井理事報告
維持会費 2,000万円の値上げのやむをえない事情を

大手6社の総務課長会議で説明し、大体各社の足並みは揃つたと思われる。この2,000万円の増額で3年間を乗り切るのが望ましい。なお説明資料は字句を整えた上で理事会に諮ることになつた。

2. アメリカ品質管理学会中西部会議に論文提出方要請に関する件

武田企画委員品質管理部会長の意向により次のとおり報告

アメリカの品質管理学会よりシカゴの日本領事宛論文を提出してほしい旨の連絡があり、外務省を通じそれを住友金属工業(株)経由品質部会へ報告した。論文は日本の代表的な品質管理のアウトラインとなる。品質管理部会の名前で論文を提出する期日は9月29、30日ウイスキーにて理事会に諮ることになつた。

3. 西山記念事業に関する件

田畑専務理事報告

故西山氏の遺徳を讃えて西山記念資金を設定する予定。金額は2,000万円、川崎製鉄(株)より正式の通知がまだないが通知をうけ次企画委員会に諮る。

研 究 委 員 会

第8回委員会 開催日：11月22日。出席者：今井委員
長他19名。

会議事項

1. 教育について
佐野会長より教育問題について、当協会でも取り上げることについての説明がありフリーディスカッションを行なつた。次回以降も検討の予定。
2. 第8回技術講座について
金属腐蝕機構 北大 岡本 剛
耐候性鋼 阪大 多賀谷正義
鋼材中の微量有害元素
(特にトランプエレメント)
阪大 足立 彰
快削鋼 大同中研 浅田 千秋
3. 日本学術会議材料研究連絡委員会報告について
4. 補助金事業について
42年度補助金事業について説明があり、また基金制度について検討した。

第9回委員会 開催日：12月20日。出席者：今井委員
長他18名。

会議事項

1. 金属化学研究所設立について
2. 教育について
佐野会長より米国の教育事情について説明があり、主として大学学部教育について討議した。
3. 基礎研究体制について
事務局より協会の長期的基礎研究体制について提案し検討した。次回以降主要議題とする予定。

第10回委員会 開催日：1月24日。出席者：三本木委員長代理他20名。

会議事項

1. 鉄鋼基礎共研第6回運営委員会報告
2. 基礎研究体制について
3. 技術講座について
 - (1) 第9回技術講座
熱間加工の基礎について
 - (2) 技術講座小委員会
設置を決定、次回までに事務局で人選し案を提出する。
 - (3) 西山資金について
4. 教育について

2. 鉄と鋼のカード化

「鉄と鋼」の論文のカード化に当たって、42年度から着手するその実施方法として現在から過去に遡って整理しカードシステムとしては、3インチ5インチ大のものを使用分類は題目に基づいてU.D.C.を使用することに決定。次回各委員のカードサンプルを検討する。

3. 図書購入に当たって

一般的利用度を考慮して、辞書各国規格ハンドブックなどについて整えていくことに決定なお辞書については仏、独、伊、露、スウェーデン語は整理されておりポルトガル、スペイン、ハンガリー、チェコ、ルーマニア語は今回購入することに決定した。

編集委員会

第12回和文会誌分科会 開催日：2月17日。出席者：荒木主査他14名。

会議事項

1. 「鉄と鋼」のあり方について
数回にわたる検討の結果の報告および委員長よりあつた。

結果報告：現在の「鉄と鋼」を論文集と会誌の2本だとし、ここ当分は、1冊にまとめて掲載していく。現在の第1種講演を全廃し、講演前刷りは全部オフセットとする。

以上報告について意見を検討、第74回講演大会（昭和42年秋季大会）より、講演概要は全部オフセットとした旨まとめ、編集運営委員会にはかることになった、また、会誌の編集については、以後さらに検討することになった。

第10回欧文会誌分科会 開催日：2月20日。出席者：橋口主査他18名。

会議事項

1. 論文審査用紙を改良するため、主査による原案に基づき検討したが、次回に再度検討する。
2. 製練関係の英文校閲を東北大学の江島辰彦氏に依頼することに決定した。
3. 論文の綴り字に関して、原則として著者の採用している方式を尊重する。不統一の場合、協会で作成した原稿の場合は英国式の綴り字を採用することに決定した。
4. (1) 論文審査報告：掲載決定したもの2件
修正依頼したもの2件
(2) 執筆依頼論文として委員より推薦された4論文に依頼状を出すことに決定した。

資料委員会

第38回委員会 開催日：2月22日。出席者：草川委員長他11名。

会議事項

1. 資料室だより
「鉄と鋼」5月号掲載の資料室だよりは協会雑誌目録を載せることに前回決定され事務局でその(案)を提出したが、検討の結果次回再検討する。

訪ソ鉄鋼技術代表団派遣

本会ではソ連学士院が開催する「製鋼物理学に関するシンポジウム」へ鉄鋼技術代表団を派遣することになった。

同シンポジウムは5月中旬ソ連で開かれる予定で、一行はの場幸雄富士製鉄副社長(中央研究所長)を団長とする下記の諸氏。

団長	的場 幸雄	(富士製鉄副社長中央研究所長)
団員	松下 幸雄	(東京大学教授)
	盛 利貞	(京大大学教授)
	不破 祐	(東京大学教授)
	瀬川 清	(八幡製鉄東京研究所)
	山崎 桓夫	(富士製鉄中央研究所)
	中川 義隆	(日本製鋼所室蘭製作所研究所)

三島前会長本多記念賞受賞決定

本会の前会長であり名誉会員である三島徳七氏はこの度第9回・昭和42年度本多記念賞を受賞することに決定した。

受賞の対象となつた研究は「MK磁石合金の研究および発明」で、贈呈式は5月13日に日本工業クラブで行なわれる。

賛助会員逝去

本会賛助会員 鮎川義介君(日本中小企業連盟総裁)は2月13日逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

共同研究会

第2回運営委員会 開催日：12月14日。出席者：山岡幹事長他29名。

会議事項

1. 圧延製品に関するマニュアルを共研分科会のうち着手できるところから製作することにし、厚板分科会で作成するものを参考とすることにした。
2. 昨年度JIS原案として作った“鋼材疵分類”は各

分科会で所有している疵見本を追加し完成させることにした。取まとめは標準化委が行なう。

3. 従来耐火物を専門に研究する場が内外になかったので共研内に新設することにした。

4. 原子力研究部会はこれを廃止することにした。

5. 特別報告書刊行に当たっては報告書刊行の分科会で予約を取ってもらい予約量の2倍程度を刊行することにした。

6. 各部会、分科会の開催経過、予定が発表された。

鋼 板 部 会

分 塊 分 科 会

第23回分科会 開催日：10月25、26日。出席者：永江主査他89名。

会議事項

第1日目

八幡製鉄堺製鉄所井上技術部長の挨拶および愛知製鋼の次回から分科会加入の承認ののち諸題 (1) 鋼片手入れと精整設備 (2) 品質歩留向上対策について各社より発表があり活発な意見交換が行なわれた。

今回は昭和42年5月福山製鉄所にて開催される。

第2日目

堺製鉄所分塊工場および熱延工場の見学会実施

ホ ッ ト ス ト リ ッ プ 分 科 会

第5回分科会 開催日：11月7、8日。出席者：吉田主査代理他50名。

会議事項

第1日目

和歌山製鉄所赤羽副所長および吉田主査代理の挨拶ののち、前回より懸案のスケール疵名称の統一結果報告および (1) AGCについて (2) 捲取機についてが報告された。

特にAGCについては各社におけるその効果、今後の計画などが細かく発表され非常に有益な意見が交換された。

今回は日新製鋼 (呉) で開催される。

第2日目

和歌山製鉄所分塊工場、熱延工場見学

コ ー ル ド ス ト リ ッ プ 分 科 会

第4回分科会 開催日：12月1、2日。出席者：芝崎部会長他57名。

会議事項

第1日目

前回分科会資料にもとづき“磨板に発生する疵名称”を7月、9月、11月の在京委員で審議し、その成果としての疵名称統一結果を検討した。一部疵見本写真に修正を要するものもあるがこれは次回在京委員会に提出してもらい最終版とすることにした。

午後東洋鋼板の酸洗工場、タンデム工場見学。

第2日目

各社の冷延ロール使用状況について発表検討を行なつた。

午後八幡製鉄戸畑製造所冷延設備の見学

計 測 部 会

第36回部会 開催日：2月21、22日。出席者：磯部副部会長他63名。

会議事項

1. 共通議題

(1) 各社差圧流量計稼働実績調査

提出資料 17編

メーカー、型番を明記し稼働の状況、精度の推移、故障率、保守のしやすさなどについて報告があつた。

(2) 保守基準の決定について

提出資料 8編

保守基準の作成マニュアルの紹介があつた。

(3) 一般議題

提出資料 16編

厚板のX線厚み計ら興味深い報告があつた。

(4) その他

工業計器の規格化を日本電気計測器工業会で進めているので、コーザーの意見を当部会でまとめることになった。

鉄 鋼 分 析 部 会

鉄 鋼 化 学 分 析 分 科 会

第3回分科会 開催日：2月6日。出席者：武井主査他41名。

会議事項

1. 鉄および鋼の化学分析方法 JIS 原案審議

(1) 炭素分析方法

(2) ケイ素分析方法

(3) いおう分析方法

(4) モリブデン分析方法

(5) 銅分析方法

(6) ほう素分析方法

2. 共同実験計画案の審議および共同実験打合わせ

(次の各成分について審議、打合わせ)

(1) ケイ素 (吸光光度法)

(2) リン (含 Nb 鋼中のリン)

(3) 銅 (キュープリゾン吸光光度法)

(4) ほう素 (抽出吸光光度法)

(5) 窒素 (容量法および吸光光度法)

(6) いおう (燃焼容量法)

(7) モリブデン (直接吸光光度法)

3. その他

武井主査が都合により今回で辞任し、後任に神森部会幹事 (八幡東研) が推薦された。

鉄 鋼 生 産 設 備 能 力 調 査 委 員 会

第6回委員会 開催日：1月20日。出席者：沢村委員他21名。

会議事項

39年12月提出の鉄鋼生産設備能力算定方式の見直しについて通産省の要望があり見直しのため第1回の本委員

会を開催した。通産省より個々の生産設備についての見直しの要点の説明があり各部会から今後の方針について説明があった。次回は3月理事会前後に開催各部会から中間報告の予定。

製鉄設備部会

第1回製鉄設備分科会 開催日：2月10日。出席者：松下部会長他12名。

会議事項

1. 各社委員確認
2. 基礎データについて

41. 10~42. 1の4カ月の各社高炉操業データを基礎データとし前回提出の能力算定方式の係数などの見直しを行なうことになった。現在、基礎データ集約中

圧延設備総合部会

鋼板設備部会

第1回厚板設備分科会 開催日：1月31日，2月1日
出席者：吉田主査他26名。

会議事項

前回答申算定方案での問題点，誤差などを各社持ち寄り検討した。その結果，圧下率，パス回数が圧延能力の基本になっているのでこれをチェックすることにし，3Hiについてはフライホイール容量，回転数をファクターに追加することにした。

加熱炉能力算定方案も次回実績と比較検討することにし，低温圧延するものについても同様にこれを検討することにした。

鋼管設備部会

第1回部会 開催日：2月21日。出席者：仲谷幹事他15名。

会議事項

1. 設備能力算定式の見直しに関する一般討論
算定式の有効利用性について，一般討論を行ない，とにかく算定式の見直しから作業をはじめることとした。各社では複雑な式を用いなくても十分な生産計画が行なわれている。算定式の見直しの過程においてもつと利用度の高い使える算定式を確定することに努力する。これが通産省の提案した簡略式と一致するかどうか確認する。
2. 見直し作業の進め方
次回各社は次の事項について資料を提出する。
(1) 設備能力算定の基本式とその考え方の良否。
(2) 基本式，その考え方が正しいものとして，各種係数または不具合な点について，の検討結果。

試験高炉委員会

第9回委員会 開催日：1月17日。出席者：辻畑委員長他18名。

会議事項

1. 第17次操業結果検討
2. 第18次操業計画について

今夏第18次操業を実施するとして操業試験テーマについて各社の意向をきいた結果引続き送風限界を追求することになった。具体的な送風機増設案，装入物細粒化案

を次回までに幹事会で検討することになった。

標準化委員会

JIS配管用鋼管規格原案分科会

第4回分科会 開催日：2月20日。出席者：田中主査他22名。

会議事項

前回で一応審議は終了したので今回は改正原案の表現方法などを審議した。ただし，ステンレス鋼管の硫酸，硫酸銅腐食試験については，新たに追加するか否か次回もう一度検討することになった。

おもな点

1. 製造方法

製鋼法，継目なしでない場合「帯鋼から」などは削除する。

2. 電気抵抗溶接鋼管の表示

熱間仕上電気抵抗溶接鋼管：-E-H

冷間仕上電気抵抗溶接鋼管：-E-C

熱間仕上および冷間仕上以外の電気抵抗溶接鋼管：-E-G

JIS鋼管用熱間圧延低炭素鋼帯規格原案分科会

第5回分科会 開催日：1月30日。出席者：下川主査他20名。

会議事項

メーカー側より第2次案が提出され，それにもとづいて審議が行なわれ最終案がまとまった。

原案のおもな点

- 1 名称：熱間圧延炭素鋼帯（電線管用など）
- 2 適用範囲：6.0mm 未満の鋼帯
- 3 種類：4種
- 4 機械的性質：

引張強さ	1種	28 kg/mm ² 以上
	2種	35 "
	3種	42 "
	4種	50 "

伸び 厚さに応じ3段階で規定している。

- 5 厚さ許容差

幅 800mm 未満 630mm 以上は G3131 と同じ，これに 630mm 未満として G3193B 許容差の該当するものを当てる。

機械試験方法 JIS 原案作成分科会

第4回分科会 開催日：1月23日。出席者：吉沢主査他22名。

会議事項

引張速度が引張試験結果にどのように影響するか，八幡，富士，鋼管，川鉄，住金，神戸，大同，東京製鋼より研究発表が行なわれ続いてこれらの結果を参照しつつ前回までに作成した粗案を見直し，Z2201金属材料の引張試験片 Z2241 金属材料の引張試験方法の最終案を作成した。これらに対する意見があればこれは工技院の専門委員会で取り上げてもらうことにした。

鉄鋼基礎共同研究会

運 営 委 員 会

第5回委員会 開催日：9月13日。出席者：三島委員長他15名。

会議事項

- 1 部会グループ経過報告
各主査より41年度の経過が報告された。
- 2 会計報告および検討
協会事務局より会計経過報告および収入予定変化による修正予算案提出され、補助金事業による研究運営費はその事業会計で独立させることに決定。
- 3 グループの部会昇格
溶鋼溶滓および微量元素グループは研究予算処置がとれたので部会となった。
- 4 研究グループ構成員について
構成員の公開公募などについて討論されたが、継続審議とされた。

第6回委員会 開催日：1月16日。出席者：三島委員長他13名。

会議事項

- 1 3部会グループ経過報告
各部会長およびグループ主査より前回の9月13日運営委員会以降の経過報告があつた。
- 2 3部会2グループ会計報告
協会事務局より各部会およびグループの会計報告がなされた。
- 3 来年度研究計画の検討
特別研究費をして本会から非金属介在物部会および転位論グループに出すこと、運営費は本会、金属学会共同で分担することに決定。

純鉄グループ

第1回会合 開催日：9月29日。出席者：作井世話人他21名。

会議事項

- 1 世話人の経過報告
作井世話人よりグループ会合開催経緯について報告さる。
- 2 純鉄グループ運営方針の検討
対象純鉄の定義、研究運営法について討論され、純鉄一貫研究の有用性が確認された。
- 3 東工大、黒田正教授「純鉄の製造法」について講演さる。
- 4 電通研、奈良富三郎氏「純鉄の精製とその磁気的性質」について講演さる。

第2回会合 開催日：12月9日。出席者：作井世話人他22名。

会議事項

- 1 純鉄グループの研究方針について
幹事会提案の①純鉄の製造に関する研究②純鉄純度判定に関する研究③純鉄の性質に関する研究の3項目を目標に進むことに決定。
また来年度共同研究計画素案が可決された。
- 2 研究発表：下記2発表があつた。
i) 「Matthauch-Herzog 型マススペクトログラフによる極微量分析」日本電子

- ii) 「純鉄中の微量炭素、窒素の内部摩擦による定量」富士製鉄：市山正氏。

非金属介在物部会

第4回部会 開催日：9月28日。出席者：荒木部会長他29名。

会議事項

- 1 キルド鋼介在物関係報告
共同研究の溶製計画、試験要領、試験分担案がキルド鋼分科会より提案され了承された。
- 2 リムド鋼介在物関係の検討
リムド鋼塊介在物分類案が荒木部会長より提案され検討された。吉井松隈各委員より「EPMA結果」および「介在物の超音波欠陥」についての研究発表があつた。
- 3 来年度の共同研究について
協会事務局より来年度研究テーマについてのアンケート結果が報告され、今年度までの研究をもつと展開させるべきだとの意見が出された。

第5回部会 開催日：2月15日。出席者：荒木部会長他37名。

会議事項

- 1 リムド鋼介在物関係報告
通産省補助共同研究が一応終了したので溶製6社の報告および通産省への研究成果報告書の承認がなされた。
- 2 キルド鋼介在物関係報告
昭和41年度共同研究キルド鋼中の介在物の進捗状況が報告された。
- 3 来年度研究計画について
今年度までの共同研究の展開をはかる共同研究費用として鉄鋼協会からある程度の研究資金が出るとの報告ののち、具体的研究の進め方が論議され、4月10日前後まで具体化することに決定された。

リムド鋼小委員会

第5回小委員会 開催日：10月8日。出席者：荒木部会長他13名。

会議事項

- 1 各社検討結果報告検討
(破疵結果と介在物分析結果の比較)
川鉄、富士鉄各委員より発表あり。
- 2 データー全体のまとめ方検討
内山幹事長より全体のまとめ方の提案があり、各委員はその案に従いまとめることに決定された。
- 3 キルド鋼試験分担について
キルド鋼介在物の共同研究試験分担がはかられ了解された。
- 4 EPMA 結果について
富士鉄委員より発表あり、EPMA法の検討を次回に行なうことに決定。

第6回小委員会 開催日：10月28日。出席者：荒木部会長他14名。

会議事項

- 1 地疵と介在物の関係に関する討論
富士鉄委員より介在物量と地疵は画一的に論ぜられず

鋼塊位置、ブローホールなどの要因の考慮を要すとの検討があり、住金委員から気泡と介在物地疵の関係の報告検討があつた。

2 EPMB 法の標準について

八幡委員より八幡での実施法の発表があつた。

3 幹事長空席について

内山幹事長英国留学の間、八幡、富士、鋼管、川鉄の4社委員の合同幹事によりリムド鋼分科会が運営されることに決定さる。

第7回小委員会 開催日：12月1日。出席者：荒木部会長他16名。

会議事項

1. 研究まとめ分担について

造塊；住金、鋼塊スラブの性状；八幡、凝固；神鋼，地疵；川鉄，特殊元素；鋼管，介在物関係；富士の分担で研究成果をまとめることに決定。

2. 溶製6社の溶解から最終試験までのまとめ報告

各社委員よりまとめられた資料に従い報告され検討が行なわれた。

鉄鋼の照射試験研究合同委員会

第24回合同委員会 開催日：2月15日。出席者：長谷川委員長他35名。

会議事項

1. 1次分について

すでに幹事会に配布してある実績報告書の正誤表は刷り増しの上、全委員に配布し、全計画を終了することにした。

2. 2次分について

2次分実績報告書を検討した。各執筆担当分に誤りがあれば3月5日までに事務局あて報告することにした。

3. 3次分について

三菱原子力からベルギーでの照射試験経過報告および予定報告ののち、協会より計画変更に関する科学技術庁原子力局との交渉経過報告があつた。

4. 4次分について

長谷川委員長素案をもとに各参加会社の試験内容案が説明されたが、3月3日に再び集まり、より具体的な計画をねることにした。

新入会員氏名

(昭和42年1月1日～31日)

維持会員

大同化学装置(株) 1口

正会員

大畑 耕一 (株)日本製鋼所室蘭
佐々木 誠 “ “
谷口 晃造 “ “
百田 昌司 “ “
大東 俊三 日新製鋼(株)呉
住森 良樹 “ “
小山 登義 “ 周南
池上 成行 八幡製鉄(株)戸畑
内藤 功一郎 “ “
田中 新 “ 技術
中川 恭弘 富士製鉄(株)中研
中沢 進 “ “
木下 征亜 “ 室蘭
内田 敏夫 (株)日立製作所日立
中川 師夫 “ 勝田

中井 俊次 日本鋼管(株)川崎
楯原 武文 “ “
宿谷 巖 東海製鉄(株)
平本 克房 “ “
戸田 重行 三菱重工業(株)神戸
林 忠男 川崎製鉄(株)葦合
山田 博之 大同製鋼(株)中研
竹山 輝義 第一高周波工業(株)
篠原 申之 住友機械工業(株)
田中 裕 東洋鋼板(株)下松
山口 正治 大阪大学
佐久間 泰 東北大学選研

学生会員

安藤 征男 名古屋大学大学院金属工学
竹之内 朋夫 “ 工学部
板坂 寛 富山大学工学部
小林 敏郎 大阪大学工学部

西海 久志 大阪府立大学工学部
黒岩 和也 京都大学大学院
石本 昼夫 鉄鋼短期大学

外国会員

Marcel NEPPER (Belgium)
G. Gattermann (Germany)
Associazione (Italy)
Industrie
Siderurgiche
Italiane
Yeo Yow Hee (Malaysia)
Chun Kit Sia (Malaysia)
Tord Krey (Sweden)
Bengt A. Holmberg (Sweden)
Tor Lindgren (Sweden)
Ulf T. Holmberg (Sweden)
H. Tigerschild (Sweden)
Joseph H. Smith (U.S.A.)